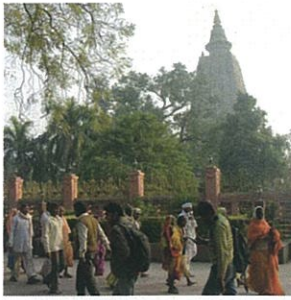


world heritage
金沢大学主催シンポジウム

世界遺産 と生きるに

地域と人々の 視点から



- 13:15 開場
13:30-13:35 開会の挨拶
中村慎一 (金沢大学新学術領域研究機構機構長)
13:35-13:40 趣旨説明
河合 望 (金沢大学新学術創成研究機構准教授)
13:40-14:30 基調講演「アンデス文明の文化遺産の保護と活用」
関 雄二 (国立民族学博物館教授)
14:30-14:55 「生活に囲まれ、埋もれ、世界遺産 法隆寺は建つ—斑鳩の記憶アーカイブ化事業を通じた文化資源の把握」
谷川竜一 (金沢大学新学術創成研究機構助教)
14:55-15:20 「世界遺産登録からみた遺跡と地域社会の変容—インド・ブッダガヤを事例に」
前島訓子 (名古屋大学大学院研究員)
- 休憩
- 15:30-15:55 「トルコ、カッパドキアのキリスト教聖堂群の文化資源的な活用に向けて」
菅原裕文 (金沢大学歴史言語文化学系准教授)
15:55-16:20 「エジプトの世界遺産ルクソールの古代遺跡とともに生きる人々と地域」
河合 望
16:20-16:45 総合討議
16:45-16:50 閉会の挨拶
須藤健一 (国立民族学博物館館長)

日時：2017年1月28日(土)

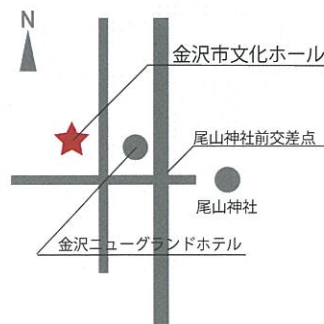
13:30[※]~16:50 (※13時15分開場)

場所：金沢市文化ホール・大会議室

(金沢市高岡町15番1号)

参加費無料・定員先着50名

世界遺産は、保護され大切に扱われるべき貴重な文化遺産であると同時に、うまく活用すれば豊かな「利益」をもたらす観光資源として考えられています。しかし誰が何のためにその価値を守り、どのように活用するのかといった議論の蓄積は、いまだ厚くありません。そこで本シンポジウムでは、世界遺産を抱える様々な地域の視点に立ち、そこにおける振興と文化遺産保護、そして住民生活の保全・改善に関する取り組みや議論を紹介します。



至・香林坊交差点

主催：金沢大学 新学術創成研究機構
未来社会創造コア 文化遺産国際協力
ネットワークユニット

共催：国立民族学博物館、
金沢大学人文学類、
金沢大学国際文化資源学研究センター、
金沢大学超然プロジェクト「文化資源
マネジメントの世界的研究・教育
拠点形成」

問い合わせ：河合望

nozomu.kawai@staff.kanazawa-u.ac.jp

TEL 076-265-5859